



## 校長室だより

2026年5月25日  
丹波市立進修小学校長

### 自然学校 「おかえりなさい！」 そして、ありがとうございました

保護者の皆様、お子さまの自然学校への出発にあたり、事前の準備や体調管理、そして温かい送り出しをいただき、本当にありがとうございました。

自然学校のプログラムを終え、学校に戻ってきた子どもたちの表情はいかがだったでしょうか。出発前よりもどこか引き締まり、頼もしさを感じさせる表情に、私たち教職員も大きな喜びを感じています。

兵庫県が推進する「兵庫型体験教育」の取り組み。大自然の中で過ごすことには、やはり他には代えがたい大きな意義がありました。子どもたちがこの自然学校で培った「多くの力」について、現地での様子を交えながらご報告いたします。



#### ◆「自然学校」の価値 ～大自然が育む五感～

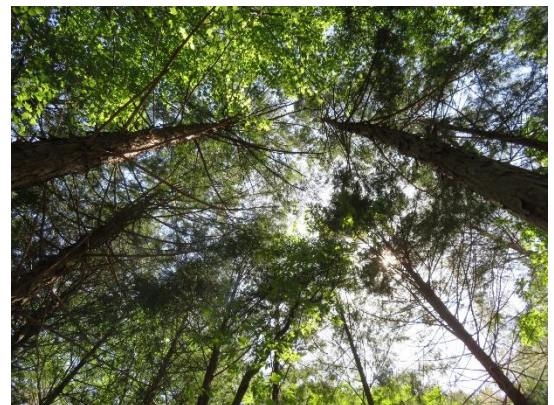
兵庫県の自然学校は、全国的にも珍しい4泊5日という長期にわたる宿泊体験です。「どっぷりと自然に浸かる時間」がここに 있습니다。都会の喧騒を離れ、山の息吹や川の冷たさ、夜の静寂や星空の美しさを五感で感じることで、子どもたちの感性は大きく揺さぶられました。自然の美しさに感動すると同時に、時には思い通りにならない自然の厳しさも体感し、環境を大切にする心や、生かされていることへの感謝の念が自然と芽生えていきました。



#### ◆「自分で決めて、動く」～見通しを持つ力と自己調整～

今回の大きな成果の一つは、「家から離れて生活する」という経験そのものです。

いつもならお家の方が声をかけてくれる場面でも、ここでは誰も指示を出してくれません。「次の活動に間に合うためには、今何をすべきか」を自分たち



で考え、時間を管理し、先を見通して行動しなければなりません。

最初は時間を過ぎてしまったり、忘れ物をしたりと失敗もありましたが、日を追うごとに子どもたちは変化していきました。互いに声をかけ合い、自分の行動をコントロール（自己調整）しながら、主体的に動く姿へと変わっていったのです。この「自分でできた！」という生活面での自信は、今後の大きな自立の足がかりとなるはずです。

#### ◆ 寝食を共にして生まれた「本物のつながり」

文字通り「同じ釜の飯を食う」生活の中で、子ども同士のつながりはより深く、濃いものへと成熟しました。

楽しいことばかりではなく、疲れて元気がなくなったり、友だちとけんかしたりすることもありました。しかし、長時間を共にするからこそ、相手の弱さを受け入れ、自分の得意なことと補い合うという「本当の協力」の姿が見られるようになりました。

#### 【一言】

自然学校の意義は、単に「楽しい思い出作り」にとどまりません。自然の中で揉まれ、仲間と支え合い、自分を律して生活したことは、子どもたちの非認知能力（生きる力）を爆発的に成長させる機会となりました。

家庭に戻られたお子さまは、いま、たくさんの「お土産話」を抱えていることと思います。ぜひ、子どもたちが「自分でやり遂げたこと」をたくさん聴いて、大いに褒めてあげ



てください。そして、家事の小さなお手伝いなど、自然学校で身につけた力を発揮できる場を、ご家庭でも少しずつ作っていただけますと幸いです。

子どもたちがこの一週間で蒔いた成長の種を、これから学校生活の中で大きな花へと育てていけるよう、職員一同、引き続き温かく、時には厳しく見守ってまいります。今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

活動の写真については、ホームページの「子どもの様子」からご覧ください